

岐阜大学医学部附属病院における日本感染症学会専門医研修カリキュラム

I：一般目標（General Instructional Objective：GIO）

感染症・微生物・抗微生物薬の知識をバランス良く統合し、感染症診療及び感染制御に長けた感染症専門医に足る能力を習得することを目標とする。

II：行動目標（Specific Behavioral Objectives：SBOs）

感染症専門医に求められる専門的な臨床能力を身につけるために、以下にあげた行動目標を踏まえて研修を行う。

1. 感染症診断学

- ① 感染症を起こす主要な病原微生物とその診断に必要な各種診断方法の種類、特徴等について理解し説明することができる。示された結果の臨床的意義について適切に評価することができる。また、一部の診断法については自身で実施することができる。
- ② 感染症診断に関する各部門からのコンサルテーションに対して、丁寧かつ適切に対応することができる。

2. 感染症治療学

- ① 抗微生物薬とその他の感染症に対する補助療法の種類、特徴等について理解し説明することができる。

3. 感染症予防学

- ① 感染症の予防方法について、その種類、特徴等を理解し、説明、実施することができる。
- ② ワクチンの種類、特徴等について理解し説明することができる。
- ③ 感染症予防に関連する法律を理解し説明することができる。

4. 感染制御学

- ① 医療関連感染防止のための基本的対策について、標準予防策と経路別予防策を理解し、説明、実施することができる。
- ② 各種サーベイランスの種類、実施方法等について理解し、説明、実施することができる。
- ③ 感染制御・医療関連感染に関する各部門からのコンサルテーションに対して丁寧かつ適切に対応することができる。

5. 臨床研修・基礎研修

研修期間中の3年間に、感染症に関する3回以上の学会発表と1編以上の論文執筆を行うことを原則とする。

6. 専門医資格の取得

研修終了後は、受験資格が整った段階で、感染症専門医研修中の臨床経験をもとに、日本感染症学会専門医認定試験を受験する。

Ⅲ：方略

基本領域学会専門医に認定されており、感染症専門医を志すものを対象とする。
岐阜大学医学部附属病院の医員として研修を行う。年に1名を定員とする。

1. 研修期間

研修期間は3年間の原則とする。

2. 研修方法

- ① 外来・入院患者の診療担当医からのコンサルテーションを基本とし、感染症担当医として感染症に関する問題が解決するまで患者のフォローアップを行う。
- ② 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の一員として、抗菌薬適正使用支援を実践する。
- ③ 感染制御チーム（ICT）の一員として、感染制御業務を担う。
- ④ 微生物検査室において、研修開始時に1週間程度、実際に微生物検査業務に携わり、微生物検査の基礎的知識を学ぶ。その後はフォローアップしている患者の微生物検査の進捗状況から、日々微生物学を学ぶ。
- ⑤ 定期的で開催する抄読会で、感染症に関する最新の情報を共有する。
- ⑥ 感染症関連の学会において年に1回以上発表する。
- ⑦ 感染症関連の雑誌に論文を発表する。
- ⑧ 週間研修スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時	ACCC/ICU 朝カンファレンス				
9時半	ACCC/ICU 感染症カンファ				抄読会
11時	症例検討会	AST 検討会	症例検討会	症例検討会	AST 検討会
13時			ICT/AST 会議		
14時			ICT ラウンド		

Ⅳ：評価方法

- ① 電子カルテ上の診療記録や症例検討会でのプレゼンテーションをもとに、自己評価および指導医評価の形で形成的評価を行う。
- ② 専門医研修1年次が終了した時点で研修内容を評価し、これを踏まえて2年次以降の研修計画を修正する。
- ③ 専門医研修3年次が終了した時点で研修内容を評価し、日本感染症学会専門医認定試験受験に足る臨床研修を修了したか判定する。